

RAINBOW

NO. 96

松江市教育委員会学校教育課 松江市学校図書館支援センター TEL:55-5073 FAX:55-5251
<http://www1.city.matsue.shimane.jp/kyouiku/gakkou/>

過ごしやすい季節、読書の秋になりました。
 10月27日～11月9日は「読書週間」です。
 (公益社団法人読書推進運動協議会 制定)
 「読書週間」が、みなさん一人ひとりに読書のすばらしさを知ってもらおうきっかけとなりますように。



授業支援(ICT)に係る学校図書館担当者研修を開催しました 8月3日(火) 会場:松江市立母衣小学校、8月4日(水) 会場:松江市立玉湯学園

学校図書館を運営するにあたりICT機器を活用した学習支援についての理解を深め、学校図書館担当者の見識の向上を図ることを目的とした研修を司書教諭(学校図書館担当教員)と学校司書、その他希望する教職員を対象に行いました。

講義・演習

「電子黒板やタブレット等ICT機器の基本的な操作や活用について」

～児童生徒が学習で活用する“スカイメニューの発表ノート”を使う体験を通して、ICTを活用した授業のイメージを広げ、学校司書のこれからの業務に生かそう～

講師 松江市教育委員会 学校教育課 若槻 徹 教育指導講師
 内田 晴己 教育指導講師

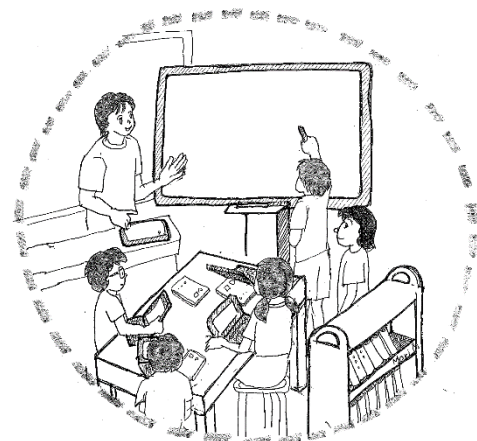
研修会の前半は、これまでの教育実践の蓄積に加え、ICT環境を整え活用することで、学習活動の一層の充実や主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図ることが期待できるという、GIGAスクール構想についての説明がありました。

後半は、タブレットに入っているスカイメニューの発表ノートの使い方の説明と、実際に発表ノートで発表資料を作成し、本を紹介し合う活動を行いました。

これからの「1人1台タブレット時代」では、授業の仕方や学び方が変わっていきます。研修会の終わりに、「学校図書館の学習センターや情報センターとしての役割はさらに重要になってくるとともに、読書の力の育成に力を入れていく必要がある」との講師からの言葉がありました。学校図書館担当者へのエールと感じました。

参加者アンケートより

- ・ICTの活用がなぜ学校で求められているのか、子どもたちが生きていく社会背景から理解することができた。
- ・タブレットやスカイメニューで児童生徒がどのように学習しているかを知ることができ、とても参考になった。
- ・タブレット等のICTを活用した授業は、今後さらに普及すると思うので使い方が分かって良かった。学校図書館とICT両方の良さを生かしながら使っていくことで、可能性が広がっていくと思った。
- ・ICT機器を上手に活用するためにも、基礎である「本を読む力」を育てていくことが大切だと感じた。
- ・図書館でのICTを活用した授業の活用例などが共有できれば良いと思った。



今年度、新規雇用と異動のあった学校司書配置校10校の訪問を行いました。
管理職と司書教諭、学校図書館担当教員、学校司書が同席し、学校図書館の運営状況や活用教育について意見交換を行いました。各校の運営や活用について紹介します。

古志原小学校

今年度のこしばらっこ図書館のテーマは「人とつながる・ことばでつながる こしばらっこ」である。本を通して豊かな感性や集中力を高めたり、コミュニケーションをとったりすることができる子どもを育てることや、調べたいことや知りたいことを図書館を活用して自らが課題解決ができる子どもを育てることを目指して取り組んでいる。

本の紹介

昼の放送で紹介した本と紹介文を展示。借りる児童が増えている。



乃木小学校

司書教諭3名と学校司書を中心に各学年部の図書館担当と連携して、学校図書館活用教育を進めている。

子どもたちが情報に触れながらほっとできる図書館であることも考慮し、可能な範囲でICT機器も常設している。

海に関わる本のコーナー

海に関わる本の世界に、子どもたちを誘う書架。たくさんの本が借りられている。



忌部小学校

全学級に週1時間の「図書の時間」を設定している。図書館を活用する内容は各学級で必要に応じて決めている。

一人当たりの貸出目標冊数を1学期に達成している児童が4割以上いる。おすすめの本を紹介したり、図書館で調べることの楽しさを伝えたりするなど、図書館からの支援の効果が表れている。

図書館前の展示コーナー

季節を感じる本を面出しにして置いている。掲示も工夫し、子どもたちが図書館に親しむようにしている。



大庭小学校

図書館を活用した授業の記録(学習指導案、教材、資料リスト、成果物等)を学年・単元ごとに蓄積している。多くの教員が授業の記録を活用し、司書教諭や学校司書の助言を参考に組み立てた授業をヒントにして、授業づくりを行っている。



図書館を活用した授業の記録

単元を書いた封筒の中に学習指導案や資料リスト等を入れて保存している。

本庄小学校

司書教諭・学校司書と授業者の連携を強化するために、直接相談できない時は「図書館利用メモ」で連絡を取り合っている。

朝読書や読み聞かせの時間を充実させるために、朝8時から貸出を行っている。植物の本や生き物の本を紹介する際に、実物も展示するなど、読書の幅や興味関心を広げる工夫をしている。

「教科書の本」

コーナー

読む本の参考用に教科書に掲載されている本のコーナーを設けている。



揖屋小学校

年間指導計画に、司書教諭や学校司書が重点的に関わる単元を示し、授業支援や資料提供を行うとともに情報リテラシーの育成について特に意識して指導するようにしている。



参考図書のコーナー

調べることの概要を、まず事典や図鑑で把握できるように、参考図書をまとめて置いている。

第三中学校

学校図書館教育目標「読書の感動を知り、豊かな心情をもつ生徒の育成」を目指し、読書に親しみ必要な時に必要な情報を得ることができる居心地の良い図書館づくりに努めている。



教員へのおすすめの本コーナー

授業等で参考になるような本をコーナーを設けて展示をしている。

湖東中学校

情報リテラシーの育成について、教科横断的な活用の観点から、各教員が担当する教科で一度は学校図書館を活用した授業を行うように働きかけている。活用できる図書館資料の紹介など図書館からの支援についても積極的に周知を行っている。

授業や話題になっている事柄に関する本のコーナー
この時は「SDGs」に関する本の展示を行った。



本庄中学校

朝読書や読み聞かせ、読書週間を実施し、生徒が読書に親しむような取組を積極的に行っている。

全教職員が学校図書館活用教育について、さらに理解を深め共通認識をもつように研修等の実施を考えている。



館内の展示

なるべくたくさん本を表紙が見えるように展示している。

鹿島中学校

毎日、朝読書を実施していることもあり、中学生に読んでほしいおすすめの本の紹介に力を入れている。

総合的な学習の時間で活用することが多い地域資料の充実化を図っている。活用しやすいように整理方法も工夫している。



郷土資料のコーナー（一部）

学校司書の活動や気づき 令和3年7月8月の学校司書業務報告書より

(各校の活動について、学校間で情報交換ができるように校名を学校(ボックス)番号で文末に表記しています。)

●読書支援に関すること

- ・「夏の読書におすすめの本」の展示コーナーを設置した。低学年向けの絵本ややさしい読み物は読みごたえ度1、中高学年向けのやさしく短めの物語は読みごたえ度2、高学年・中学生向けは読みごたえ度3というように、学年別ではなく読みごたえ度別に分けて配置した。担任からは「児童が本を選びやすくなった」などの感想があった。実際の貸出時には、なかなか本を決められずにいる児童に、このコーナーの本がおすすめだと声をかけると、ページをめくりながら自分に合う本を探すことができていた。(7)
- ・夏休み用の本の貸出を行った。通常より多く5冊まで借りられるようにすると、子どもたちはとても喜んでいて、「夏休みの間に長いお話の本を読む!」という子や「お菓子の本を借りて、お家でお母さんとお菓子を作るの!」という子もいた。普段なかなか読まない本や触れ合わない本に、自ら挑戦して借りてくれることを嬉しく思う。(21)



- ・夏休み前は読書感想文用の本を探しに来る生徒が多かった。選書のポイントを書いた掲示や読書感想文におすすめの本の展示コーナーを設けていたが、直接、学校司書に聞いてくる生徒が多かった。一人ひとりに本の内容や背景などを説明すると、ほとんどの生徒が借りて行ってくれた。自分自身は学校司書の業務の中で、本の紹介をすることが一番楽しいと感じている。今まで以上に、生徒が興味をもってくれるような知識を話術を身につけていきたいと思う。(49)

●環境整備に関すること

- ・夏休み中に「リーディングトラッカー」や「五十音表」、「カタカナ表」、「ローマ字表」を作成し、カウンターの近くに置いた。1学期に子どもたちが読書をしている様子を見ていたら、自分が持っているしおりを行にあてながら読んでいる子がいたことから、読書補助用に必要な時にいつでも使えるようにした。また、他校の実践を参考にし、分類サインにピクトグラムを使用したものに変更し、利用しやすい図書館になるように改善を行った。(17)
- ・夏休み期間中に司書教諭と一緒に館内のレイアウト変更などを行った。今まで以上に使いやすい図書館になったのではないかと思う。さらに、劣化した背表紙や背ラベルなどもきれいに装備をし直して並べるとガラッと雰囲気が変わり新鮮な書架になった。ある新聞記事に「古くて傷んだ本は捨てること」、「選択基準は21世紀の子どものためになるか否か」と書いてあったことを思い出しながらの館内整備は、本と向き合う良い機会となった。(38)



●研修に関すること

- ・今年度の校内研修は、県立図書館から講師を招き読み聞かせについての研修を行った。図書館担当者はもちろん他の教職員にもわかりやすく充実した内容だった。読む本の選び方や読む時の注意点など参考になることが多く、質疑応答の際には、個々が抱えていた疑問に納得のいく回答を得ることができ、今後の取組への自信にもつながった。全教職員が読み聞かせへの認識を共有し、読書推進の手助けになる有意義な研修であった。(19)